

平成28年度

自主公開研究発表会

「主体的・対話的で深い学びへ向かう授業の創造」

～言語活動を用いた 国語科の
単元構成と シンキングツールの活用～



四教……子四つを以って教う
文(学問)行(実践)忠(誠実)信(信義)

平成28年12月10日(土)

佐伯市立佐伯小学校

<http://syou.oita-ed.jp/saiki/saiki/> a55010@oen.ed.jp

目次

本日の日程	1
講師紹介	2
I. 本校の研究のあゆみ	3
II. 本日の授業	
1. 一般授業 板書指導案	
1年	6
2年	10
3年	14
4年	18
5年	22
6年	24
2. 提案授業 指導案	28
「わたしがおすすめする宮沢賢治作品はこれです！」	
～フラワーリーフレットで宮沢賢治作品のメッセージを伝えよう～	
3. 資料	
(1) 2年 国語科学習指導案	37
(2) 3年 国語科学習指導案	46
(3) 3年 国語科学習指導案	53
(4) マトリックス型 年間指導計画(5学年)	62
(5) 国語科学習指導・評価計画	63

*校舎案内図

自主公開研究発表会 日程

1. 本日の動き

8:30 9:00～9:20 9:30～10:15 10:25～11:10 11:20～12:00 13:00～14:20 14:30

受付	全体会	一般授業	提案授業	授業研究	昼食・休憩	講演	開会行事
----	-----	------	------	------	-------	----	------

2. 全体会

- (1) 開会の言葉
- (2) 校長あいさつ 佐伯小学校 校長 大塚 悦夫
- (3) 来賓紹介
- (4) 本校の研究について 研究主任 御手洗 貴久
- (5) 諸連絡

3. 一般授業 *授業は全て国語科です。各学級の教室にて行います。(裏表紙・案内図参照)

学級	単 元 名	指 導 者
1の1	「おはなし大すきカード」で、わたしの大すきなところをともだちにしょうかいしよう。	大津 恵子
1の2		八木 章雅
2の1	「生き物が大きくなるまで」のじゅんじょがわかる すごろくを作って友だちとしょうかいし合おう!	姫野 麻依
2の2		津村富至子
3の1	お気に入りの斎藤隆介作品のブックカードを書き、 全校の人に斎藤隆介作品を広めよう。	藤本 祥子
3の2		阿部 尚之
4の1	新美南吉の世界を味わって、「南吉のお話ポスト」 を作り、お気に入りを紹介しよう!	赤峰 文子
4の2		麻生真由美
5の1	私がおすすめる宮沢賢治作品はこれです! ～フラワーリーフレットで宮沢賢治のメッセージを伝えよう～	東 亜紀子 矢田 倫一
6の1	「私のお気に入りの1冊」の紹介文を書いて、おうち の人に読んでもらおう。	児玉 幸治
6の2		服部 靖代

4. 公開授業

学 級	単 元 名	指 導 者
5の2	私がおすすめる宮沢賢治作品はこれです! ～フラワーリーフレットで宮沢賢治のメッセージを伝えよう～	矢田 倫一 吉武 諒

5. 研究協議

指導助言 佐伯市教育委員会 指導主事 吉田 康彦様

6. 記念講演

講 師 関西大学総合情報学部教授 黒上 晴夫先生
演 題 「教科におけるシンキングツールの活用について」

講師紹介

関西大学総合情報学部教授 黒上 晴夫 先生

■略歴

生年月日 昭和 34 年（1959 年）5 月 21 日生まれ

学歴・職歴

昭和 58 年（1983 年）3 月 大阪大学人間科学部卒業

昭和 58 年（1983 年）4 月 大阪大学人間科学部研究生（昭和 59 年 3 月まで）

昭和 59 年（1984 年）4 月 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程入学（教育学専攻）

昭和 61 年（1986 年）3 月 同 修了

昭和 61 年（1986 年）4 月 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程入学（教育学専攻）

平成元年（1989 年）3 月 同 単位取得退学

平成元年（1989 年）4 月 大阪大学人間科学部技官

平成 2 年（1990 年）5 月 国際協力事業団より人口家族計画啓蒙教材作成専門家としてケニアに派遣（同年 7 月まで）

平成 2 年（1990 年）10 月 大阪大学人間科学部教育技術学講座助手

平成 4 年（1992 年）4 月 大阪大学人間科学部教育システム工学講座助手

平成 5 年（1993 年）4 月 金沢大学教育学部附属教育実践研究指導センター助教授

平成 11 年（1999 年）4 月 金沢大学教育学部附属教育実践総合センター助教授

平成 14 年（2002 年）4 月 関西大学総合情報学部教授

■研究領域

＝教育工学＝

- ・インターネットの教育利用
- ・教育メディア開発
- ・総合的学習のカリキュラム開発
- ・「学び」を成立させるための学習環境デザイン
- ・「学び」の評価

シンキングツール
～考えることを教えたい～
著者：黒上晴夫・小島華里・泰山裕



■研究内容

学校教育について、子どもたちが自由に学べる学習空間を創造することを目標にして研究している。そのためには、そもそも学校というシステムそのものを見直して行かなければいけないかもしれない。今、学校でどのように「学び」がおこっているのか。総合的学習やインターネットなどを通じた「学び」とはどんなものか。そもそも何をもって「学び」と言えるのか。そのような「学び」を保障するシステム条件は何か。このあたりが興味を中心である。

■著書（主な研究業績）

『多元的知能の世界—MI理論の活用と可能性』日本文教出版（2003）．〔Howard Gardner, Multiple Intelligences-Theory in Practice（1993）〕黒上晴夫（訳・監訳）

『子どもに向きあう授業づくり～授業の設計、展開から評価まで～』図書文化社（2006）黒上晴夫（共著）

『教育メディア研究 13 巻第 1 号』, 日本教育メディア学会（2006）黒上晴夫

『小学校総合的な学習ビジュアル解説 24』日本文教出版（2008）村川雅弘・黒上晴夫（編者）

『シンキングツール～考えることを教えたい～』NPO 法人学習創造フォーラム（2012）黒上晴夫・小島華里・泰山裕



MEMO



本校の研修のあゆみ

- 平成23年度 国語科の研究を始める。
- 平成24年度 単元を貫く言語活動を位置づけた国語科の授業づくりに着手。
○県教委の指導を受け、単元を貫く言語活動を位置づけた国語科の授業づくりに取り組む。自主公開研を2月に実施。
- 平成25年度 国立教育研究所の「教育課程研究校指定・国語科」を受ける。
○自主公開研を2月に実施。
- 平成26年度 「教育課程研究指定校事業に係る国語科の授業公開」を6月と10月に実施。
○国立教育研究所 水戸部修治 調査官の指導を受け、「単元を貫く言語活動を位置づけた国語科の単元づくりと、教育課程の編成について提案。
- 平成27年度 大分県図書館教育研究会の指定校として発表
○国語科の授業の中で、B教材（教科書教材から波及する教材）としての学校図書館の活用について提案。

<昨年度までの研究の成果>

1. 3要素1チェックを重視する

- 授業づくりにおいては、付けたい力と言語活動にずれが生じないように、単元づくりの**3要素（付けたい力・言語活動・教材）1チェック（評価基準）**を明確にした上で構想を練ることが大切さであることがわかった。

※ これを怠ると、言語活動が目的化してしまうエラーにつながる。

2. 1時間の中でめざす子どもの学びを明確にする。

- 授業の中で評価基準を位置づけることで、その時間に子どもが何を学ぶのかを明確にすることができた。

3. 学習の流れを児童と共有する。

- 学習計画を子どもたちと一緒に作り、それを掲示することで、**単元の流れ**を意識しながら学習することができる。
- 1時間の授業の流れ**や、学習のめあてについても、時間の初めに確認する。また、**ふりかえりの視点**を与えることで、学習のぶれを無くすことにつながる。

4. 学習の系統性の確保

- 「国語科指導・評価計画」、「マトリックス型年間指導計画」を作成し、それを活用しながら単元計画を立てていった。また、各単元で使用した本のリストを「ブックリスト」としてまとめたことで、言語活動を考える際の手助けとなった。
- 年間6本～10本の授業研究と、日常的な実践によってできた指導案、単元計画、及び成果物も、言語活動を考える際の手助けとなっている。

<昨年度までの研究の課題>

1. 子どもの主体性を高める

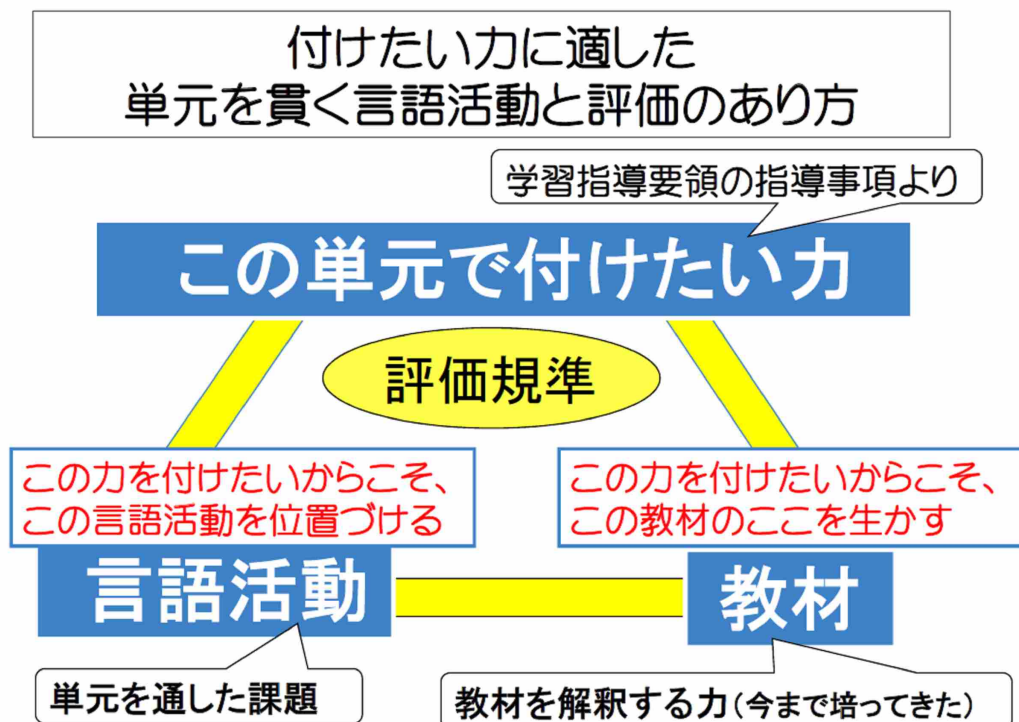
○アンケートの中で、「国語が好き・楽しい」と答える児童の割合は、年々増えてきている（本年度1学期末……78%）。しかし、まだまだ言語活動や読み書きなどの基礎的な内容に対して苦手意識を持つ児童はいる。そんな子どもたちが、活動に主体的に参加できるように、基礎・基本の定着とともに授業の中での工夫が必要である。

○その方策として、交流活動の活発化がある。書くこと、読むことが苦手な子どもも、交流によって、そのヒントを得たり、自分の考えやを明確にしたりするためにも、交流活動の活発化を図りたい。

2. 話し合い活動・交流活動の目的を明らかにする。

○ペアや、グループによる交流活動の目的には、①困りを解決する、②自分の考えを確かめる、③考えを広めたり深めたりする等があるが、その目的を明確にすることが大切である。またその目的に応じて、どのような交流が適しているか、構成メンバーをどうすればよいか等のくふうが必要である。

<3要素1チェック>



平成28年度

<研究主題>

「主体的に読み、適切に表現する子どもの育成」

～単元を貫く言語活動を位置づけた国語科の授業と指導法の工夫・改善を通して～

<主題分析>

「主体的に読み」とは～ ・課題を解決するために自ら既習事項を活用し、自分の考えと比較しながら読むこと

- ・必要な情報を取り出し、分析し判断すること
- ・作者や筆者の意図や作品の情景を捉えること

「適切に表現する」とは～ ・発達段階に応じ、国語の用語を正しく用いて表現すること

- ・順序や根拠、関係などを示しながら表現すること
- ・自分の意見を吟味（比較・検討・整理）し表現すること

<研究仮説>

付きたい力と子どもの実態にあった言語活動と評価を設定し、課題に対する具体的な解決の方法や見通しを持たせ、思考が深まるプロセスを保障していけば、主体的に読み、適切に表現する子どもが育つであろう。

<研究内容>

①単元を貫く言語活動と評価

- ・付きたい力に適した単元を貫く言語活動と適切な評価のあり方

②1時間の授業の流れ

- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」に呼応関係、適切な手がかりのあり方
- ・子ども自身の課題解決のプロセスにおいて思考が深まるような教師の問いかけ（質・タイミング）や交流（全体・グループ・ペア）のさせ方

③学習の系統性

- ・6年間を見通した言語活動の作成（昨年度見直した今年度の教育課程やマトリックス型を参考にしながら、授業を行い、必要に応じて見直し・変更）

④その他

- ・並行読書する本の選定・見直し（学校図書館・公共図書館の活用）
- ・言葉の特徴やきまりに関する事項の定着

これまでの実践の中で、子どもたちが主体的に思考し、活動する授業を展開するために交流の果たす役割が大きいことが確認された。そのためにシンキングツールを活用することについて模索している段階である。

〈今年度の取り組み〉

- ・研修でシンキングツールの活用について理解を図る（書籍も紹介）
- ・研究授業の事後研等で、シンキングツールを使い、実際にその良さを経験するように仕組む
- ・授業改善の5点セットの設定
- ・各教科で必要に応じてシンキングツールを活用した授業を実践する。